

イーストウェストセンター人口研究所主催 第23回人口サマーセミナー

イーストウェストセンター人口研究所が主催する第23回人口サマーセミナーが6月1日から7月3日まで5週間にわたって開催された。最初の4週間はハワイ、ホノルルのイーストウェストセンターにおいて4つのワークショップに分れて発表と議論を行い、最後の1週間はソウルのKWDI (The Korean Women's Development Institute) に場所を移して韓国の家族計画、人口転換、高齢化等について学ぶとともに、急速に変化しつつあるソウルを視察した。

4つのワークショップのテーマは、

Analysis of Data on Contraceptive Use and Choice

Asian Historical Demography

Comparative Studies of the Demographic Transition in the Asia and Pacific Region

Family Change and Aging

であり、それぞれ14, 5名、計55名がアジア各国及びアメリカから参加した。日本からの参加は、総務庁統計局、日本大学、ジョイセフからの3名と筆者の計4名であった。筆者が参加した人口転換のワークショップには、日本の他、スリランカ、パキスタン、インド、インドネシア、ベトナム、中国、韓国から計14名が参加した。最初の1週間余は各自が用意したペーパーに基づいて発表と議論を行い、次いで、これら各国の人口転換の現状認識を踏まえつつ、コーディネーターであるイーストウェストセンター人口研究所のGriffith Feeney博士およびFeng Wang博士、リソースパーソンのスタンフォード大学フーバー研究所のMikhail S. Bernstam博士から人口転換理論や分析手法等についてのレクチャーを受けた。最後の1週間余は異なる国の参加者が2人ないし3人で共同して人口転換に関する比較研究を行い、その研究成果を発表してワークショップを終えた。この小さな共同研究プロジェクトで筆者は中国社会科学院人口研究所の陳萍博士と韓国保健社会研究院の鄭基源博士とともに、

The Comparative Study on Fertility Decline of the Metropolises of China, Korea, and Japan
with Respect to Socio-Economic Context

に取り組んだが、これは相互の共通の文化基盤を認識できた楽しい共同作業であった。他の組み合わせをみても南アジア同士、東アジア同士となり、人口転換という極めて包括的な問題を理解するには文化的な共通性が大きな手助けとなることを実感した。ともあれ、5週間にわたるセミナーは今後の研究交流の出発点となる有意義なものであった。なお、イーストウェストセンターでは、2年後の第25回セミナーを記念すべきものとするため、毎年のセミナーとは異なる企画で開催したいとの考えを持っている。これまでの参加者で記念セミナーに関してアイデアをお持ちの方はイーストウェストセンターに連絡を取ることをお勧めしたい。

(大江守之記)